出会い頭の2人

栗崎新

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
出会い頭の２人

【Ｎコード】
Ｎ３５４４Ｉ

【作者名】
栗崎新

【あらすじ】
聴覚に障害を持つ男が送る午後。とある女性と出会い、運命が動き出す。

上から肩を叩いた。ベンチに腰を下ろしているその女性は一瞬驚いた顔を見せたが、僕が手帳を渡すとそれを読み始めた。手帳には僕が聴覚に障害があること、また友達のマンションまでの道を教えてほしい旨が書いてある。

僕は生まれた時から音が拾えない。駅前なのに電車の音は聞こえないし、選挙カーで声を張り上げている政治家の演説も耳に入ることはない。僕にとって、筆談と手話は生命線だ。

女性は見たところ２０代の半ばといったところだ。鼻がすっきりとしており化粧は、ナチュラルメイクというのだろうか、それほど濃くはない。後ろで黒髪をまとめていて、芯の強さを感じさせる。白のキャミソールからは胸の谷間が、ねずみ色のミニスカートからは綺麗な太ももが惜しげもなく露出していた。いかにも男の視線を集める格好だ。

女性が顔を上げ、手帳を手渡してきた。僕は次の言葉を書こうと手帳にペンを伸ばしたが、それより先に彼女から腕を軽く叩かれた。女性のほうを見ると、慣れた手つきで言葉を紡ぎ出していた。（このマンション知ってます）

（手話わかるんですか？）と僕も手と顔を動かす。

（カウンセラーをしていまして、その職業柄）

女性は道案内を申し出た。僕はその親切さに思わず（いいんですか）と確認した。

（これもカウンセラーの仕事のうちだと思うので）彼女が微笑む。

＊＊＊＊＊

ここです、と彼女は夕焼けに染まるマンションを指差した。十数階建ての高層マンションだ。　（立派なところですね）

（今日初めて来ましたが、こんなにすごいところだとは思いませんでした）　僕は言い、続けて、よかったら夕食どうですか、と彼女を誘ってみた。

（いいんですか？）

（僕の友達も歓迎してくれると思います。料理がうまい男です。夕食は僕が保証しますよ）

女性は、じゃあお言葉に甘えて、と僕と一緒にマンションに入った。夕日が沈んでいく。

＊＊＊＊＊

ドアを開けると友達の男が出迎えた。ラグビー選手のような、その友達の体格はいつ見ても迫力があった。お互いの挨拶も程々に女性のことを紹介し、部屋に入る。こちらです、と彼女を手招きし、リビングのドアを開けた。

＊＊＊＊＊

僕は素早く部屋の隅に寄った。彼女がその部屋の異様な雰囲気を察知する前に、後ろからついて来た僕の友達が彼女をフローリングに押し倒し、羽交い絞めにする。

部屋で待ち伏せていた2人の男が、よくやった、と言ったのかはわからないが、親指を上げた。その2人が女に寄り、耳元に顔を近づける。残念でした、とか騒いでも意味無いよ、とかそういう類のことを言っているのだろう。僕は、（その体なら、彼らもうまく料理してくれるでしょう）と彼女の前で腰を屈めて手で囁いた。女は観念したのか抵抗することもなく、歪んだ表情のままだった。

彼女を仰向けにし、服を脱がせようとする。友達が準備運動とばかりに両手をいやらしく動かした。その両手がゆっくりと、キャミソールの紐を女の肩から外し胸があらわになろうとした時、床に振動が走った。

＊＊＊＊＊

僕が状況を飲み込めず、友達がそれぞれの方向に走るのを見ているのも束の間、後ろから両腕を掴まれ倒された。顔面が床につき、身動きが取れなくなる。何とか横を向くと、部屋に制服を着た男達が大勢流れ込んでくるのが目に入った。そんな中、女がキャミソールの紐を肩に戻しながら僕の視界に入り込んでくる。完全に紐を戻すと、彼女がポーチから手帳を取り出し僕に見せた。ろくに見ずともそれが警察手帳であることはすぐにわかった。ポーチに戻すと、彼女が微笑みながら手を動かす。

（これは仕事のうちだと思うので）

（後書き）

ありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3544i/

出会い頭の2人

2011年1月15日02時40分発行